

部活動のあり方について

■現状

- ・現在北川中学校では、卓球部（男子）、バレー部（女子）、総合文化部の3部を開設している。
- ・生徒総数が減少している中、特に運動部活動の人数の確保が課題となっている。
- ・一方で、生徒のニーズに沿った部活動が広がる観点から、吹奏楽など他市町村の部活動に参加できるように検討してほしいという保護者の皆様の声も頂いている。

■今後の検討事項

- 他市町村への部活動入部について、下記事項に留意しながらニーズ調査を実施する。
 - ※現存する本校部活動への影響が少なからず生じることが想定されること。
 - ※休日も含めて日常的な送迎をどのように行うのか検討する必要があること。
 - ※受け入れる相手方市町村の同意が必要となること。
 - ※受け入れ側と送り出す側（北川村）の行事等のこまめな確認を行う必要があること。

■北川中では開設していない近隣町村における部活動の現状

○吹奏楽部（奈半利中・田野中・安田中）

- ・原則田野中において合同で練習。（移動時：奈半利は原則自転車、安田は公用車）現在在籍数は田野中が最も多く、奈半利中と安田中が田野へ出向き練習している。

○野球部（奈半利中・田野中・安田中・馬路中）

- ・原則平日はそれぞれの学校、週休日は合同で練習。（移動時：ほとんどの中学校が公用車で移動）現在各中学校の在籍数は3名前後であり、次年度も合同チーム編成が想定されている。

○陸上部（奈半利中）

- ・近隣町村では奈半利のみ実施。

○女子バスケットボール（奈半利中）

- ・近隣町村では奈半利のみ実施。

■今後のスケジュール

- ・11月30日（月）：6年生体験入学時に児童及び保護者の皆様に説明
- ・12月 1日（火）：PTA役員会において、上記の今後の検討事項について説明
- ・12月 4日（金）：保小中学校運営協議会で意見をいただく
- ・12月中：ニーズ調査を実施（どの学年を対象として調査を実施するかはPTA役員会で検討）
- ・1月上旬：PTA役員とともに調査結果を踏まえ方向性を確認 → 調査結果及び方向性を保護者に伝える

今後の子育て文教エリアのあり方について

●子育て文教エリアの村の現状等

- ・村内に公園や図書館など村民が集い活用できる施設整備が脆弱である。
- ・保小中一体的な教育の観点からすると、現状では保小中の校舎や敷地が別であり、15年を見通したより効率的・効果的な施設運用の視点が必要である。
- ・文教施設において、築年数が40年を超える建築物が多くみられ、ここ数年で築50年を超過する状況となっていることから、「子どもの多様な学習形態に応じた施設」や「防災や環境等に配慮した施設」とは必ずしもなりえていない。
- ・なお、今後40年の施設の改修・補強等によるコストは約30億円、一方で施設の建て替えによるコストは約26億円と試算がでている。（R2北川村学校施設等長寿命化計画より）

●「これからの子育て文教エリアの在り方講演会」（11月23日）において講師からの提言

- ・「学校作り」は「地域作り」。人口減少の中、将来を見据えてどのような村を創り上げていくのか、地域を巻き込んだ議論が今こそ大切である。福井市立安居（あご）中の改築に際しては、住民や教職員、子ども達とのワークショップを行い、学校のあり方だけでなく、将来の地域のあり方についても議論を重ねてきた。
- ・また、全国的に見ると、既存の学校施設にはない「地域交流スペース」や「子育て相談機能や保育機能等との複合化」「図書機能やICT活用スペースを一元化したメディアセンター」など、特色ある施設整備が見られるようになっている。
- ・保小中の一体的な施設は全国的にもあまり例がなく、村の特色を活かした15年間を見通した子育て・教育は他のモデルとなりうる。
- ・地域に学校がなくなるとは村が衰退する。地域の拠点として、村に活気を生み、地域に愛される文教エリアのあり方を住民参画で前向きに検討することが将来の村作りにつながる。そのためには、検討結果を踏まえ設計等に生かせるよう、基本計画をしっかりと策定することが必要。

●これまでに（保護者懇談会等）保護者や地域住民の皆様から頂いたご意見

- ・地域との連携・協働、学校施設の地域開放を目指した施設整備
公園、図書館、ものづくりなどの体験できる場、地域の方が集まりやすい場所、役場や福祉施設との一体化（病気や夜間の預かり保育）、既存施設は村営住宅やシェアオフィスにしてはどうか。
- ・環境や防災に配慮した施設整備
災害に強い施設（耐震など）、防災を含めたコミュニティーセンター機能が必要。
- ・保小中一体的な施設整備
一体型の施設、不登校の子どもが活動や学習できる場所があれば。
- ・一方で、今後子どもが減少するなら規模を考える必要があるという意見や多額の費用をかけるのはどうかという意見も頂いている。

●11月23日学習会時に保護者や地域住民の皆様から頂いたご意見

- ・将来的な学校作りが村作りにつながっていくと思う。地域と一体になった素敵な施設ができると良い。
- ・子どもが巣立ってからどの世代も集える村の拠点、シンボルになると素敵だと思いました。
- ・北川村では保小中がつながる他にはない特色を活かしたい。
- ・事例を紹介して頂き、北川村らしい施設を創ることができればいいなと思った。そのためには、たくさんの住民が前向きに話し合いを深める場が大切だと思う。
- ・学校が子ども達の創造性と課題解決力、積極性を育む場所になってくれる、そのような学び舎が造られることを期待している。
- ・子ども達の意見もしっかり取り入れていくことも大切である。
- ・人数の確保をいかに果たすか行政の責任は重いと思う。

■今後の方向性

- ・頂いた村民の皆様のお思いや願いを形にするため、単なる学校作りの視点だけではなく将来の村作りの視点を持ちながら地域と共にある子育て文教エリアの整備について、次年度までに基本計画を策定すべく本格的に議論をスタートさせたい。（柳川氏をコーディネーターとするワークショップの開催）